

一般質問

松山議員

環境教育について

Q 質問

①提案していたユネスコスクールに、勝山市の全小中学校12校が加盟・認定された。今後、勝山市の特色を生かしたユネスコスクールの活動をどのように進めて行くのか。

②福井大学との包括的連携協定事業における、ESDプログラムの開発等は、現在どのように進められているのか。

A 答弁

①各小中学校が独自に立てているESDカレンダーという年間活動計画に基づき、それぞれの特色を生かした持続発展可能教育を推進していく。またユネスコスクールに加盟が認められたことにより、地方にありながら国際的な情報が得られるほか、他の加盟している学校や大学、NPO、企業等との交流を図ることができるので、今後は教職員の研修も含めた、より広い視点からESDの取り組みが展開できると期待している。

②各校の学習現場で得られたノウハウや写真などの資料を生かして、今後さらに、赤とんぼに続く新たなテキストの作成を大学との共同研究の中で進めていく。

その他の質問
・エコパークとジオパークの推進について

かつやまふるさと検定について

Q 質問

①勝山市民が、勝山の歴史、文化、産業、エコミュージアムの活動等をより理解し、故郷への理解を深めるために実施された「かつやまふるさと検定」。今後どのように取り組んでいくのか。

②市民学芸員の制度化はされていないが、今後、どのように取り組んでいくのか。

③ふるさと検定の問題集を職員研修等で活用すべきでないか。

A 答弁

①今後、再認定制度の導入など研究の中で、専門編の毎年実施についても検討していく。

②エコミュージアム協議会、ジオパーク推進協議会等の協力を得て調整を図りながら、ふるさと検定や再認定制度等を含めた形で総合的な制度を設けていきたいと考える。

③職員の様々な研修の場での活用を積極的に考えていきたいと思います。



ユネスコスクール プレート贈呈式

北川議員

人口減少社会について

Q 質問

2040年までに896の自治体では20歳から39歳の女性が半数以下になり、人口減少が加速し、将来的には消滅の危機にさらされるといふ衝撃的な内容が、日本創成会議から発表された。そこで、当市においての若者や女性が地域に定着し活躍するための取り組みべき課題について伺う。

A 答弁

今年度、地域における男女共同参画の実態についてアンケートを実施しており、今後、アンケート結果を分析し、実際に女性が地域で果たしている役割について研究し、地域における女性の活躍の支援に取り組んでいく。

また、若者が地域に定着し活躍するため、住宅取得等に対する助成、子育て支援、人が住みたくなる環境整備、観光の振興などの政策に合わせ、頑張っている市内企業の実態をアピールし、若者の市外流出対策に取り組んでいく。

その他の質問
・地域包括ケアシステムについて

ヘルプカードの導入について

Q 質問

「ヘルプカード」とは、視覚・知的・内部障がい者などが日常生活で困った時や災害

時に周囲の人に、障がいへの理解や支援を求めるため、緊急連絡先や必要な支援内容が記載されたもので、助けが必要な人と手助けしたい人を結ぶカードです。当市において、障がい者の支援に有効なヘルプカードの導入の考えはないか伺う。

A 答弁

新たにヘルプカードを作成して配布し所持をお願いするより、すでに所持携帯している障害者手帳やお薬手帳などご自身がいつも携帯している物に、緊急時等に対応できるような情報を書き込んでおいたりする方が有効かと考えている。現在、そのようなことを、各地区での「ふれあいサロン」で説明しており、まず自助の精神から個人情報を持ち歩くなど、また市民各位が非常時に対応できるように、今後も市民向けの研修会等の場を借りて周知に取り組んでいく。

